

そよかぜ診療所 研修体験記

神戸大学医学部附属病院 研修医 I

地域医療研修として 2025 年 11 月の 1 ヶ月間、そよかぜ診療所で研修をさせていただきました。日ごとに深まる秋の気配に包まれながらの研修は、緊張と期待の入り混じる始まりでしたが、秀樹先生、静子先生、黒瀬先生、そしてスタッフの皆さまが温かく迎えてくださり、すぐに安心して学びに集中できる環境をつくってくださいました。

診療所では外来見学に加え、採血やエコー、X 線撮像などの手技も実際に経験させていただきました。大学病院ではなかなか一人で任されることのない場面でも丁寧にご指導いただき、戸惑う場面でもスタッフの皆さんが一步先を読みながら支えてくださったおかげで、不安なく手技に臨むことができました。特にエコーを短期間で多数経験させていただき、集中的に学べたことで一気に理解が深まりました。また、診療所内の幅広い業務を限られた人数で支えている姿に、診療所ならではの強さを感じました。患者さんの治療・採血などの処置に加え、訪問診療・看護・リハビリ、さらに経営面に至るまで、全員が当事者意識を持って関わっている様子は、大学病院の様な大きな病院では見かけない姿ですので、多くの学びを得ることができました。

訪問診療では、病院では見えにくい“暮らしの中の医療”に触れました。大学病院と比べると患者さんとお会いする頻度が格段に多く、最低でも月 2 回は顔を合わせるという点にまず驚かされました。また、病院でお会いするのではなく患者さんのお宅に伺い、病状だけでなく患者さんの生活、一緒に暮らすご家族のことを伺いつつ、生活の場に寄り添いながら診療を進める中で、治療方針は疾患だけで決めるものではないということを深く実感しました。大学病院のような大きい病院では難しい、患者さんとの落ち着いた会話や、お看取りに向けたご家族への丁寧なお声がけなど、静子先生・秀樹先生の患者さんへのご対応に触れ、臨床現場で大切にすべき姿勢を深く再認識しました。

研修の合間には朝来市を散策し、山々を赤や金色に染める紅葉の美しさ、おいしい食材と日本酒を育む豊かな自然と、住民の皆様の穏やかな人柄に触れ、この地域の魅力を肌で感じることもできました。

私は呼吸器外科を志望していますが、この研修で学んだ「人と暮らしに寄り添う視点」は、どの分野に進んでも決して揺らがない医療の土台になると強く感じています。疾患だけでなく、その人の人生全体を見据える姿勢をこれからも忘れず、専門分野でも生かしていきたいと思います。

あっという間に過ぎてしまった 1 ヶ月でしたが、この経験は間違いなくこれからの医師人生の大きな支えになると確信しております。丁寧なご指導と温かいお心遣いをくださった先生方、スタッフの皆さま、そして関わってくださった患者さんにご家族の皆さまに、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。川沿いの桜並木が満開になる季節に、また訪れたいと思います。